

カラマツミキモグリガ

カラマツの幹や枝から虫糞の混じったヤニがでる。その部分の樹皮内にイモムシ（幼虫）や蛹がみられる。幼虫は秋から早春に発生する。最大長約11mm。頭は茶色。体は灰色、頭の近くの背面は暗い茶色。尾端背面は暗い茶色。蛹や蛹殻は春にみられ、茶色。

まれに多発し、木を衰弱させる。

【学名】 *Cydia laricicolana*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道；アムール, シベリア。

【生態】

宿主：カラマツの樹皮。

年1世代。樹皮内で幼虫で越冬する。5月下旬～6月上旬に樹皮内で糞をつづって繭を作り蛹になる。成虫は6月下旬～7月上旬に出現。幼虫は樹皮内に潜り、夏から翌春にかけて内樹皮を食べて成長する。

【被害と防除】

カラマツ林でまれに多発記録がある。10年生前後の林で多発するといわれている。枯れることはないが、成長が遅れる原因になるといわれている。防除は普通必要とされない。

【文献】

1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場研究報告, 22: 85-129. (形態, 生態)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

カラマツミキモグリガ himehama/karamiki/kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/12/24.